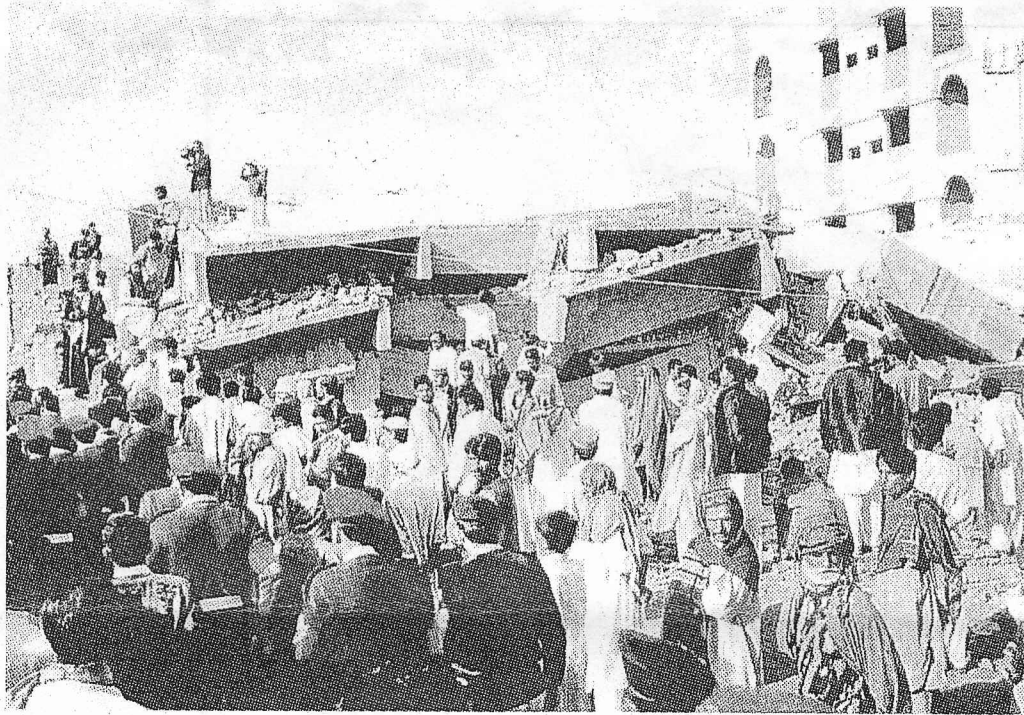


# インド 西部地震

# 国家の祝日一転し惨劇

## ビル倒壊、救出作業続く

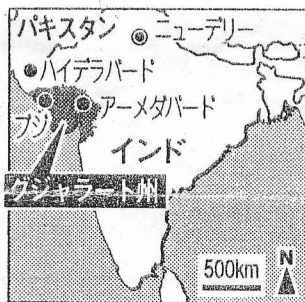
【ニューデリー26日共同】倒壊して粉々になったビルの現場で、クレーンや手作業で続く救出作業。肉親の安否を心配そうに見守る住民たち。憲法記念日(リパブリックデー)の二十六日朝、インド西部を中心に同国全土を襲った地震は、首都での軍事パレードなど国家の威信を示すはずだった年に一度の「特別な祝日」を暗転させた。(1面に関連記事)



西部グジャラート州の中心都市アーメダバードでは十五余りのビルやアパートが倒壊、がれきの中から遺体が運び出される度に、遺族の悲痛な声が上がった。テレビの取材に答えた住民は「経験したことのない大きな揺れが続き、危ないと

26日、強い地震が襲ったパキスタンのハイデラバードで倒壊したビルのがれきの中から生存者を探す人々(AP共同)

ないこの地域では、建物の耐震対策は皆無に近い。救出作業や被害状況把握で陣頭指揮をとる州当局者



分かっていても自宅から逃げ出せなかった」と恐怖を語る。地震のほとんど起き

は「電話など通信回線がずたずたでお手上げだ」と、いら立ちを隠さない。国営テレビは地震後もパイ首相らが出席した首都ニューデリーでの軍事パレードを延々と報道、すぐに地震一色の速報合戦となった民間テレビとの違いが目立った。

### AMDAが

### 医師派遣検討

日本赤十字社は二十六

日、地震で大きな被害が出ているインドのグジャラート州に医療チームを派遣し、現地で医療活動を行うことを決めた。

派遣されるのは熊本赤十字病院の宮田昭医師(西)ら十三人。三人は二十七日、十人は二十八日に出発する。期間は約二週間、仮設診療所を設置しけが人などの手当てを行う。

また大規模な火山噴火が切迫しているインドネシアのジャワ島に二十七日、調査のため医師一人を派遣する。

一方、国際医療ボランティア団体AMDA(本部岡山山形)も二十六日、インドに医師を派遣することを検討している。